

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3年次生 川口 薫乃

1. はじめに

この度、本学の国際交流基金の助成を受け、令和5年2月25日～3月26日の1か月間カナダ「トロント」にて、語学学習を行いました。なお、現地では、ホームステイを行い、ホストファミリーと共に生活しながら語学学校に通学し、英語力の学習に加え、体験プログラムや様々な国から来た皆さんとの交流を行いましたので、ここにご報告を致します。

2. 渡航について

本留学につきましては、近畿ツーリストグループ・株式会社ユナイテッドツアーズ「ACOSTA アコスタ海外留学情報センター」様に、語学学校申込みや申請・ホームステイ・航空券の手配、ZOOMでの出発確認作業までの全面的にご協力いただきました。留学中の緊急時の対応窓口や工程表による帰国までのプラン設定など、全面的な安心できるサポートでした。

3. 語学学校について

カナダ最大の語学学校であるILAC（アイラック）は、バンクーバーとトロントにキャンパスがあり、年間1.6万人もの90か国から来た学生が学ぶ、世界的にも最も多様性に富んだ語学学校の1つです。学生サービスのスタッフも日本語含めて40か国語に対応しており、母国ごとに窓口がありました。また、学力レベルから17に分かれ、さらに1クラスが10名から15名に分かれて学習をしました。

4. 授業について

クラスは、10名前後で発言しやすい環境でした。年齢層は、20歳代のメキシコやブラジルから来た社会人が多く、ビジネス上必要となり留学をされた方が半分、学生留学が半分ぐらいでした。8時30分から13時00分までが基本カリキュラムで、午後の追加授業や土日や夜にアクティビティー・観光旅行なども参加しました。レベルクラス分けテストを出国前にネットで行っているため、授業は自分にあったレベルで受講でき、2週間が1サイクルになっていました。テストのスコアはリスニングがかなり伸び、普通の会話でも相手が言っていることも理解でき、会話を楽しむことができるようになりました。また授業では、先生の話を聞いたり、問題を解くだけでなく、早口言葉を練習したりカードゲームで対決したり自然に新しい単語を覚え、使うことができるようになりました。

5. 薬局の見学について

まず、印象的だったことは、ビタミン剤が多く種類も豊富に販売されていることでした。鎮痛剤を見てみると成分説明にアセトアミノフェンと大学で学習した成分名があり、少し嬉しい気分になりました。また、カナダでは、薬品だけでなく、すべての商品に英語とフランス語の2か国語が記載されていました。

6. 授業後の時間について

学校が開催しているビンゴ大会や学校で申し込めるナイアガラの滝ツアー、アイスホッケーの観戦ツアーなどに積極的に参加をしました。その時は、クラスメイトや日本人の友だちだけでなくその場で仲良くなった子と一緒に行動をしました。

放課後は、クラスの友だちとカフェや公園、図書館で宿題をしたり、トロント市内を散策したり、美術館、博物館、科学センターなども行き、1か月間、とても充実した時間を過ごすことができました。

7. ホームステイについて

語学学校から地下鉄で7駅にある清楚な住宅街の1戸建て民家で、学校の先生をさせているマザーと猫3匹と、フランスの留学生1名と過ごしていました。部屋は可愛く、規則もなく常に私を尊重してくれました。朝食と夕食も、時間が合えば一緒に食べるような形で、マザーはすごく仕事が忙しい方でした。でも、毎日、昼食のお弁当を作ってくれ、毎晩、私が学校でどんな勉強をしたのか、どんなところに行ったのかの話を聞いてくれたり、晩御飯の食材のことを教えてくれたりと、私を気遣ってくれる優しいマザーに感謝しかありません。とても幸せな時間になりました。

8. おわりに

この留学を通して、1か月間がとても充実し貴重な時間となりました。日常的な英語が聞き取れるようになり感動しています。また、様々な国から同じ目的を持った友だちと出会い、地域の薬局やスーパーやカフェに行き、文化施設への観光やスポーツ鑑賞など、カナダの文化に少し触れることができました。

国際交流基金の助成によって、このような貴重な経験の数々とたくさんの出会いに感謝の気持ちでいっぱいです。そして、大学をはじめ、様々な方々にご支援を頂き、本当にありがとうございました。

